公立大学法人奈良県立医科大学 女性研究者・医師支援センター

News Letter

まほろばだより

2023 June vol.45

第45号

Contents

- Report1　国際ソロプチミスト奈良―あすか女性研究者賞
- Report2　国際ソロプチミスト奈良―あすか大学院女子学生奨学金クラブ賞
- Report3　本学教員・研究者及び附属病院勤務医師の女性割合（令和5年5月1日現在）
- Report4　6年一貫教育授業・良き医療人育成プログラム「ロールモデルを探す」
- Information1　令和５年度下半期研究支援員配置希望者募集

Report 1 小児科学講座 古川晶子先生が国際ソロプチミスト奈良―あすか女性研究者賞を受賞されました

国際ソロプチミストは女性と女児の生活と地位を向上させるための奉仕活動を行い、世界の様々の女性の地位向上を目指す組織です。国際ソロプチミスト奈良―あすかクラブでは、将来性のある研究を行う優秀な女性を表彰する目的で女性研究者賞を創設しています。本学からは、奈良県立医科大学女性研究者学術研究奨励賞を受賞した研究者を毎年推薦しています。

この度、小児科学講座の野上恵嗣教授ならびに女性研究者・医師支援センターから推薦を受けた古川晶子助教が、「インヒビター保有軽症・中等症血友病Ａ症例のF8変異を導入したモデルマウスを用いたインヒビター発現リスクの検討」という研究テーマで、国際ソロプチミスト奈良―あすか女性研究者賞を受賞されました。

Report 2 血栓止血先端医学講座 細田千裕先生が国際ソロプチミスト奈良―あすか大学院女子学生奨学金クラブ賞を受賞されました

国際ソロプチミスト奈良―あすかでは、大学院女子学生を対象として、将来社会に貢献し得る人材を育成するための奨学金を設置しています。

本年度は、血栓止血先端医学講座の辰巳公平准教授ならびに女性研究者・医師支援センターから推薦を受けた細田千裕先生が、「体細胞からの血管内皮前駆細胞作成と血友病Ａ細胞治療への応用」という研究テーマで、国際ソロプチミスト奈良―あすか大学院女子学生奨学金クラブ賞を受賞されました。

Information 1 令和５年度下半期研究支援員配置希望者を募集します

当センターでは、妊娠・出産、育児、不妊治療、介護等のライフイベントが原因で、一定期間、研究時間が十分に取れない常勤の女性研究者・医師（教員、診療助教、病院助教、研究助教）を対象に研究支援員を配置しています。現在は診療助教１名、臨床系教員10名、基礎系教員２名の合計13名の女性研究者がこの制度を利用しています。

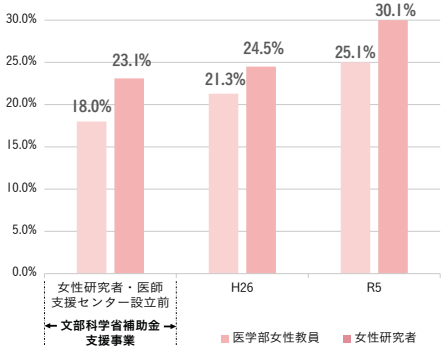
令和５年度下半期（令和５年10月～令和６年３月）の希望者募集については、７月に学内一斉メール・学内専用HP等から案内予定です。制度の利用を新たにご検討されている方は、女性研究者・医師支援センターの須﨑 康恵マネージャー（内線2525）までお問い合わせください。

Report 3 本学教員・研究者および附属病院勤務医師の女性割合

（令和５年５月１日現在）

女性研究者・医師支援センターは現在、第３期中期目標・中期計画（令和元年度～令和６年度）に沿って女性教員増加に向けた様々な活動を行なっています。当センターは平成23年度に設立され、３年間は文部科学省科学技術人材育成費補助金、平成26年度以降は法人予算を活用して運用しています。その間、本学の女性教員・研究者の割合は着実に増加し、令和５年度は女性教員が25%、女性研究者は30%を超えています（図１）。しかし、医学科女性教員数は令和２年度をピークに減少しており、令和５年度の女性教員割合は、第３期中期目標・中期計画の目標値である19.5%を下回る19.1%となっています（図２）。第２期中期目標・中期計画（平成25年度～平成30年度）では、本学で最も女性割合が低い臨床系女性教員を増加するために数値目標を設定していました。第２期中期目標・中期計画の終了後２年間は臨床系女性教員が順調に増加していましたが、その後減少し、本年度は昨年度と同数の46人にとどまっています（図３）。臨床系女性教員は、学生のみならず臨床研修医や医員等若手医師にとっても身近なロールモデルであり、本学の男女共同参画推進に重要な役割を担っています。教員候補となる診療助教には、女性医師が約28%在籍していますが（図４）、臨床系女性教員の採用割合は令和元年度をピークに、ここ３年間は10%台と低迷してしています（図５）。本学教員の離職割合には男女差を認めないため、医学科女性教員増加のためには毎年20%以上の女性教員の採用が必要と思われます。当センターでは今後も女性診療助教を対象とした研究支援を積極的に行い、彼女等の教員への登用を各臨床系教室に働きかけていきます。一方、本学の常勤女性医師は若手医師を中心に順調に増加しており、本年度は第３期中期目標・中期計画の最終目標値である140人を超える150人となりました（図６）。女性研究者・医師支援センターでは、不妊治療、妊娠・出産、育児等のライフイベント中の若手女性医師の研究活動を支援するため、令和３年度からは研究支援員配置制度等、研究支援の対象を常勤の病院助教にも拡大しています。女性研究者・医師に対する研究支援につきましては、当センターのHP「研究支援のご案内」をご覧ください。

図１　医学部女性教員・女性研究者割合の推移



※ 研究者…教員+研究員（医員、寄附講座教員、特任教員、共同研究講座教員、研究助教、特別研究員、URA）

図２　医学科女性教員数・割合の推移

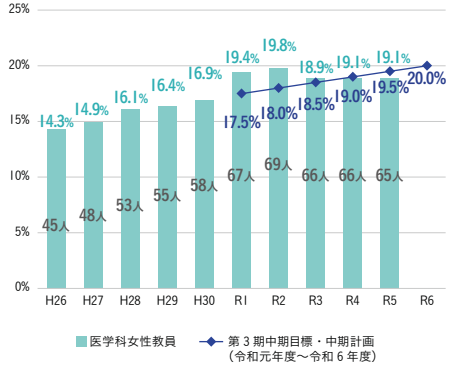


図３　臨床系女性教員数の推移

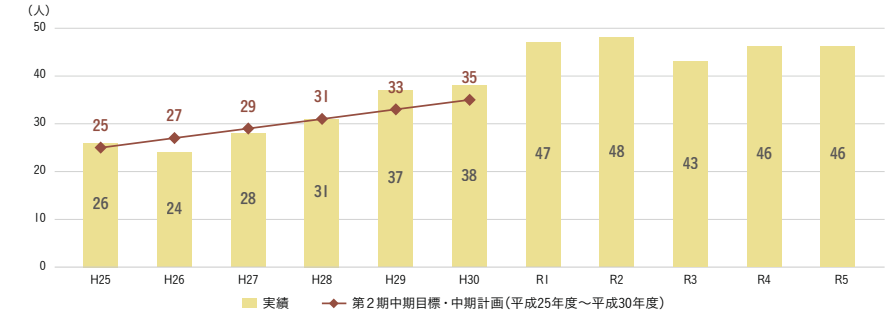
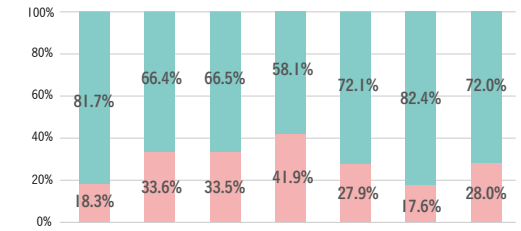


図４　附属病院勤務医師の職位別男女割合



	臨床研修医	専攻医	医　員	病院助教	診療助教※1	臨床系教員	全 体
男（人）	67	91	113	75	44	211	601
女（人）	15	46	57	54	17	45	234
全体（人）	82	137	170	129	61	256	835

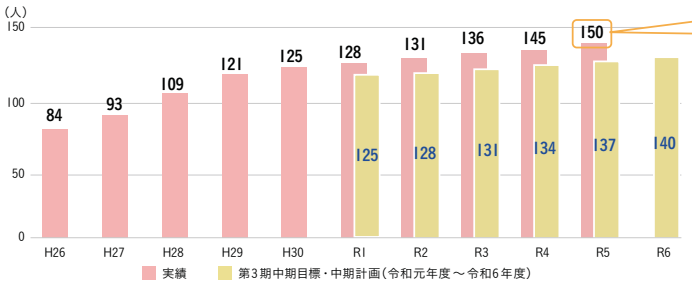
※注１　地域医療学講座　特任助教含む

図５　女性教員採用割合

	医学部女性教員	医学科女性教員	臨床系女性教員
H26	18.2%	12.8%	16.1%
H27	26.7%	23.3%	21.6%
H28	30.2%	22.9%	22.7%
H29	23.1%	22.2%	20.0%
H30	31.4%	22.6%	24.0%
R1	33.3%	28.9%	35.1%
R2	15.4%	13.2%	11.8%
R3	31.6%	23.5%	16.7%
R4	24.3%	17.6%	15.6%

注）女性教員採用割合（%）＝ $\frac{\text{女性教員採用数}}{\text{男女教員採用総数}} \times 100$

図６　常勤女性医師数（週5日勤務）の推移　※臨床研修医を除く



医師教員 ※1	49
診療助教 ※2	17
病院助教	7
医　員	37
専 攻 医	40
合計（人）	150

※１　基礎系教員等含む
※２　地域医療学講座　特任助教含む

令和５年５月１日現在、臨床系女性教員46人の所属教室は図７の通りです。本学で最も多く臨床系女性教員が在籍するのは小児科学と産婦人科学で、ともに６人の女性教員が活躍しています。次いで、眼科学と麻酔科学が４人、皮膚科学と病理診断学が３人と続いています。なかでも**産婦人科学と麻酔科学では、昨年度と比べて女性教員が更に増加**しています。また、昨年度は女性教員がゼロであった**整形外科学と耳鼻咽喉・頭頸部外科学に女性教員が就任**しています。臨床医学教室の中で講師以上の上位職に女性が在籍するのは、全28教室中９教室（小児科学、眼科学、皮膚科学、病理診断学、放射線腫瘍医学、リハビリテーション医学、消化器内科学、脳神経内科学、感染症センター）で、**感染症センターで新たに女性講師が就任**しています。上位職に女性が在籍する９教室のうち６教室では複数の女性教員が在籍しており、後進の女性医師の育成も進んでいることを示しています。

一方、女性教員がゼロである臨床医学教室は、８教室あります。これら８教室のうち**６教室（呼吸器内科学、血液内科学、胸部・心臓血管外科学、泌尿器科学、救急医学、口腔外科学）では、女性教員及び女性診療助教ともにゼロ**となっています。今後、これら６教室で若手女性医師の育成が進み、女性教員ゼロの教室に女性教員が誕生し、その他の教室により多くの女性教員が就任することを期待しています。

当センターでは、女性研究者・医師への研究支援を中心に、ワークライフバランス推進やハラスメントの防止、医学科学生へのキャリア教育などを通して、今後も女性の活躍を応援していきます。

図７　臨床系女性教員の所属教室（令和5年5月1日現在）

所　属	人数（人）
小児科学	**6**
産婦人科学	**6**
眼科学	**4**
麻酔科学	**4**
皮膚科学	**3**
病理診断学	**3**
放射線腫瘍医学	**2**
リハビリテーション医学	**2**
消化器・総合外科学	2
放射線診断・IVR学	2
消化器内科学	**1**
脳神経内科学	**1**
感染症センター	**1**
循環器内科学	1
糖尿病・内分泌内科学	1

所　属	人数（人）
精神医学	1
総合医療学	1
がんゲノム・腫瘍内科学	1
整形外科学	**1**
耳鼻咽喉・頭頸部外科学	**1**
腎臓内科学	0
脳神経外科学	0
呼吸器内科学	**0**
血液内科学	**0**
胸部・心臓血管外科学	**0**
泌尿器科学	**0**
救急医学	**0**
口腔外科学	**0**
その他	**2**
令和５年度　臨床医学系女性教員　合計46名	

講師以上の上位職に女性が在籍する教室
女性の教員・診療助教ともにゼロの教室
女性教員数が増加した教室

Report 4 良き医療人育成プログラム「ロールモデルを探す」の授業を実施しました

医学科２年生107名を対象に、女性研究者・医師支援センター教員の須﨑康恵マネージャー、裏山悟司コーディネーター（生物学）、当センターおよび教育支援課の事務職員が協力し、「ロールモデルを探す」の授業を行いました。

本年度は、３年ぶりに全授業を対面で実施することができました。学生たちは講演を熱心に聞き、講演後のグループワークでは書記、司会、発表、質問、回答と毎回違う役割を立派に果たして議論を深めてくれました。第１回の授業の後、河野先生を講師にお迎えし、「大学における性暴力への対応について考える勉強会」を厳橿会館で開催しました。本学で学生や研修医の支援に携わる教員ならびに事務職員等14名が参加し、課題と対策について情報共有を行いました。今後も、学生、教員、職員と協力して性暴力の予防に努めていきたいと思います。

ご多忙の中、講演をお引き受けいただいた島根大学 松江保健管理センター河野美江教授、学生に研究の重要性をユーモアを交えてわかりやすく教えてくださった嶋緑倫医学部長に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

第１回 ５月12日　講演「産婦人科医が行う性暴力被害者支援」

島根大学
松江保健管理センター
河野美江 先生

▲グループワークの様子

第２回 ５月19日　講演「小児科医から血友病専門医へ：患者のQOL向上を目指して」

医学部長
嶋 緑倫 先生

▲講演の様子

第３回 ５月26日　講演「医師の男女共同参画」

女性研究者・医師支援センター

マネージャー
須﨑康恵 先生

コーディネーター
裏山悟司 先生

［編集後記］

この３年間は、COVID-19感染症対策のため「ロールモデルを探す」の授業をオンラインで実施していました。今回、全授業を学生の様子が見える対面で再開し質疑応答を円滑に行うことができ、大きな喜びを感じています。学生たちの授業、クラブ活動、アルバイト、友人との交流等、かけがえのない生活が、パンデミックで再び制限されることがないよう願っております。

マネージャー　須﨑康恵

［編集・発行］

奈良県立医科大学 女性研究者・医師支援センター「まほろば」
〒634-8521　奈良県橿原市四条町840
奈良県立医科大学　基礎医学棟５階
TEL：0744-23-8011（直通）
0744-22-3051（代）内線：2525
E-mail：jshien@naramed-u.ac.jp

にこにこ